

年 組 名前:



山梨県テニス協会などが普及に力を入れている「テニピン」

テニス協会 普及へ力

山梨県テニス協会は、手にはめたラケットでスポンジボールを打ち合う競技「テニピン」の普及に力を入れている。テニスと卓球（ピンポン）のダブルスの要素を取り入れ、子どもがプレーしやすく全員均等にボールに触れる機会があるのが特徴。考案した山梨学院短大の今井茂樹准教授は「個が輝く」とも状況判断、戦略を練る力も身につく。テニスの面白さも感じられる」と語る。県協会は今井准教授と協力し、小学校の体育などで取り入れられるよう普及に取り組んでいく考えだ。（小池直輝）

「テニピン」体育の授業に

「個が輝く」

テニピンはテニスの競技経験が豊富な今井准教授が東京都内の小学校教諭時代、テニスを体育の授業に取り入れたいとの思いから考案。縦10尺、横5尺のコートに高さ約80センチのネットを張り、卓球のダブルスと同じように同チームの選手が交互に打つ。4回ラリーをし、その後の5球目以降からの攻撃で得点が認められるルール。全員が競技に参加しやすくなっている。

バウンドは2回までOKで運動が苦手な児童でも打ち返しやすいうちにした。日本テニス協会の普及推進本部副部長も務める今井准教授は「小学生に用具操作は難しいとも言われるが、手にはめたラケットなのでタイミングを合わせやすい。教諭時代に授業で取り入れたが、競技力に大きな差を生じず全員が楽しんでいた」と話す。

日本テニス協会もホームページに専用ページを設けるなど普及に力を入れていて、コロナ禍で距離を取って楽しむことができない競技としても注目されているという。

県協会は2017年に改訂された小学校学習指導要領解説体育編で、新たに例示された「パドミントン」やテニスを基にした易しい（簡易化された）ゲームに「テニピン」が当てはまるとして、体育への導入を働きかけていく。用具は安価で日本協会の貸し出しもあるという。

今井准教授は「児童はそれぞれ工夫して戦略性を持つて授業に取り組んでいた。少人数ででき、誰もが楽しめる競技・授業として山梨の学校にも広めていきたい」と語る。県協会の担当者も「今井准教授と協力し、特に小学生の体育に取り入れられるよう力を入れていく」と話している。

(2022年8月4日付 山梨日日新聞 12面)

問1 「テニピン」とは、2つのスポーツの要素を取り入れたスポーツです。そのスポーツは何と何ですか。

..... と .....

問2 次の文章の①から⑥に当てはまる数字を答えてください。

『テニピンのコートは、縦①メートル、横②メートルに、高さ③センチのネットを張ります』

①..... ②..... ③.....

問3 「テニピン」のコートは面積を答えてください。 ➡ .....